

News Release

2019年4月25日
N I T E (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

屋内の事故から子どもを守る ～環境と物選びでもっと安全に～

1. 事故の発生状況

北海道では、0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故は、2013年度から2017年度までの5年間に合計3件ありました。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数 (2013～2017年度)

発生年度	合計
2013年度	0
2014年度	0
2015年度	1
2016年度	0
2017年度	2
合 計	3

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数 (2013～2017年度) ※1

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	0
	軽傷	2
物的被害	拡大被害	1
	製品破損	0
被害なし		0
合 計		3

(※1) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) 電気ファンヒーター

○2015年12月（北海道、1歳、軽傷、使用期間約5年）

事故内容：子どもが使用中の電気ファンヒーターにつかまり立ちしたところ、手に火傷を負った。

事故原因：保護者が目を離した隙に子どもが高温となっていた天板と前面板の角につかまったまま手を離さなかったことから、火傷を負ったものと推定される。なお、本体及び取扱説明書には、「子どもは付き添いなしで使用させない。」「暖房中、操作部以外の本体表面には触れない。やけどの恐れがある。」「暖房機の上に腰をかけたらしない。やけどの恐れがある。」と記載されていた。



つかまり立ちでやけどする状況

(2) 乳幼児用移動防止さく

○2017年11月（北海道、1歳、軽傷、使用期間約10か月）

事故内容：乳幼児用移動防止さくの隙間に子どもの足が挟まれ、軽傷を負った。

事故原因：当該製品のさくの隙間は凹凸や弾力性のない直線的な形状で、足が挟まった箇所の隙間の幅は約53mmあり、挟まった足が抜き出しにくい形状とはいえ、事故発生時の足の入射角、速度、子どもの身体寸法など種々の条件が組み合わさったことで、足が挟まり抜け出せない状態になったものと推定される。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

（本件に関する問い合わせ先）

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者：大井、下川

電話：011-709-2324